

吉田の町家の住空間と住まい方に関する研究
—食事空間「イタバ」の位置と特性について—A study on the living space and living mode of "machiya" in Yoshida
- The characteristics of the dining space named "Itaba" -渡辺 恵*¹

Megumi WATANABE

西村 伸也*²

Shinya NISHIMURA

新潟県燕市吉田の町家を対象とし「イタバ」に着目して、吉田の町家の地域性を明らかにする。現在、改築等により昔の姿を残すイタバは少なくなっている。本来イタバは居住者の生活の中心の場であった。イタバの付き方を中心として、階段位置や周辺空間との関係を調査分析することにより、吉田の町家の住空間や住まい方の特徴を明らかにすることができたと考える。

Keywords Machiya Itaba Froustage Stairs
町家 イタバ 間口 階段

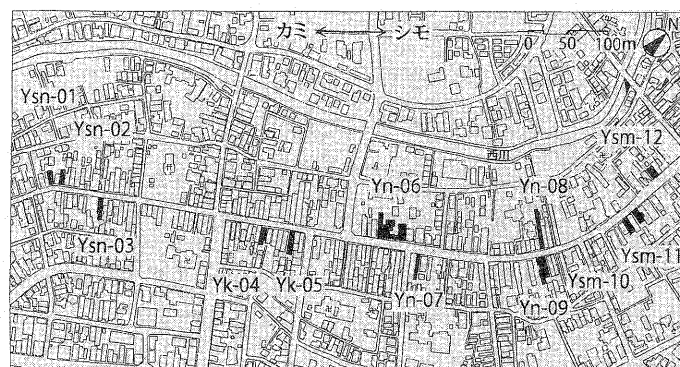
1. 研究目的

日本の伝統的な都市型住宅である町家は、隣接住戸と近接し、奥行方向に長く間口幅は狭い。そのなかで町家は、地域や住戸ごとに固有の発展を遂げてきた。本研究は新潟県燕市吉田（旧吉田町）の町家を対象とし、食事空間である「イタバ」の位置や特性について分析することにより、吉田の町家における住空間と住まい方について明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

調査対象地である吉田は、信濃川の支流である西川流域に位置する。北西からの季節風が強く吹くが、県内では比較的積雪は少ない地域である。江戸時代には西川舟運の河岸場として、また新潟湊に達する北陸道沿いの宿場町として発展し、新町—上町—中町—下町にかけて短冊状の町割が形成された。

2006年9月から12月にかけて、町家計12軒の実測・ヒアリング調査を行った（fig. 1, 2）。



調査対象(燕市吉田) fig.1

住戸番号	街区	住戸概要		土間幅(四)	間口(四)	列構成	イタバ	
		建築年代	職業				有無	付き方
Ysn-01	新町	明治初期	大工	1.0	3.2	1列構成	●	部分型
Ysn-02	新町	明治初期	大工	1.0	3.0	1列構成	●	室型
Ysn-03	新町	明治初期	(獣医)	1.0	3.0	1列構成	●	室型
Yk-04	上町	明治末期	(金物屋)	1.0	5.3(主屋3.5)	1列構成	●	室型
Yk-05	上町	昭和6年頃	文房具屋	1.0	3.0	1列構成	●	室型
Yn-06	中町	江戸末期	(文房具屋)	1.0	12.6	2列構成	●	室型
Yn-07	中町	昭和20年頃	酒屋	1.0	2.9	1列構成	×	室型
Yn-08	中町	明治初期	事務用品店	0.83	2.8	1列構成	●	室型
Yn-09	中町	明治末期	米屋等	1.0	6.0	2列構成	●	室型
Ysm-10	下町	昭和30年頃	紙屋	1.0	4.0	1列構成	△	トオリ並列型
Ysm-11	下町	明治末期	菓子屋	1.0	4.0	2列構成	○	トオリ並列型
Ysm-12	下町	明治初期	(櫛屋)	1.0	4.1	2列構成	○	トオリ並列型

○: 有り ●: 昔有り △: 昔有り・一部残存 ×: 無し

調査住戸の概要とイタバについて fig.2

*¹新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程*²新潟大学工学部建設学科 教授・工学博士

Graduate school of Science and Technology, Niigata Univ.

Prof. Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Univ., Dr. Eng.

3. 吉田の町家の空間構成

吉田の一般的な町家は切妻・妻入りの屋根形状で、住戸前面には雁木がかけられている。室構成は1階主屋オモテ側よりミセ・チャノマーネマと続き、後方にイタバが位置する。シモ側には幅1間程のトオリと呼ばれる土間空間が配され、オモテ側からウラ側へ抜けている。トオリの一部には、水炊事を行うダイドコロと呼ばれる空間が配される (fig. 3)。

間口幅が4間以下の町家は1列構成に、間口幅が4間以上の町家は2列構成になり、2列構成は下町に多くみられた。1列構成とは土間空間に沿って室が1つ並び、2列構成とは土間空間に沿って室が2つ並ぶ空間構成のことをいう (fig. 4)。

4. イタバの位置と特性

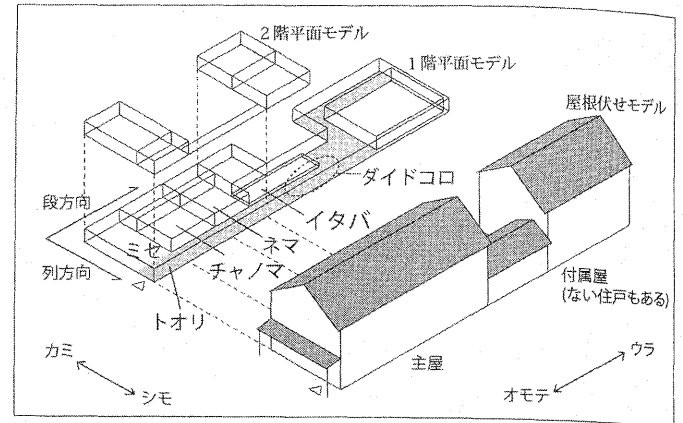
イタバとは、板張りでトオリとの境に仕切りのない空間で、主に食事が行われる (fig. 5)。

4-1. イタバ周辺の空間

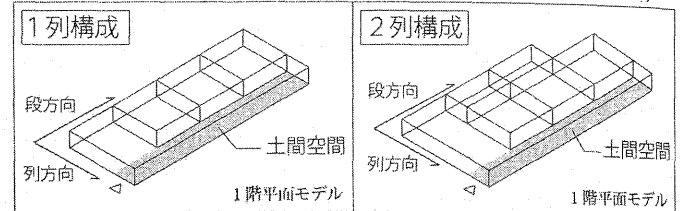
イタバ周辺の空間には、炊事を行うダイドコロ、団欒や就寝を行うネマ、下足域のトオリがある (fig. 6)。カマドはイタバと近接しており、食料等を貯蔵する穴蔵がイタバ下部に設けられていたり、イタバ・ダイドコロは一繋がりになっており、機能的な炊事空間と食事空間を構成している。また、冬以外はネマではなくイタバで団欒が行われたり、居住者のトオリから室側への上がり口になる。イタバは周辺の空間とつながることにより、主要な生活空間を形成している。

4-2. イタバの付き方の分類

吉田の町家では、住戸ごとにイタバの付き方に違いがみられる。イタバの付き方を部分型、室型、トオリ並列型の3つに分類し、行為と特徴をみていく (fig. 7)。



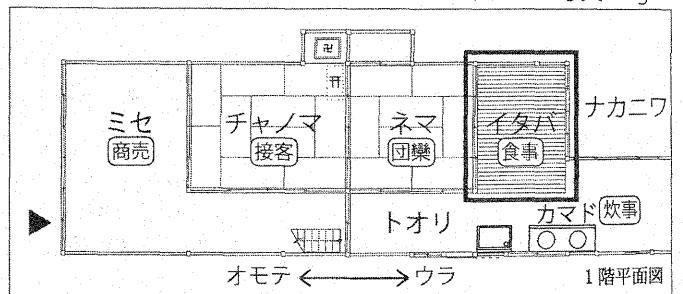
吉田の町家モデル fig.3



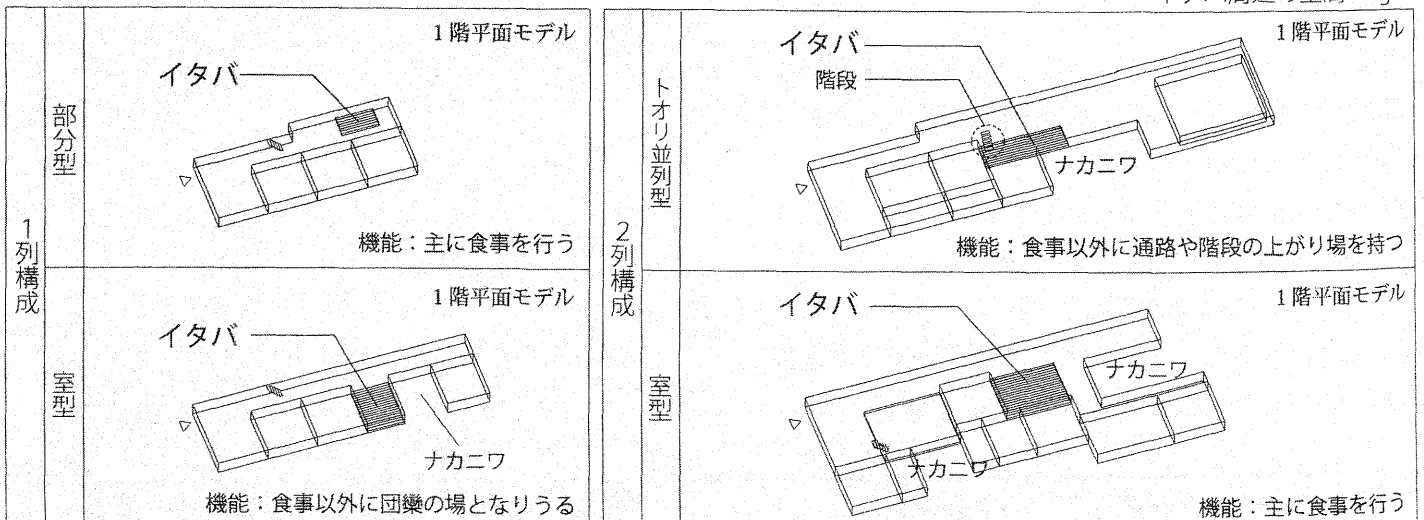
列構成について fig.4



イタバの写真 fig.5



イタバ周辺の空間 fig.6



イタバの分類 fig.7

部分型はイタバがトオリの一部に付く型で、主に食事が行われる。室型はイタバが室の後ろ側に中庭に面して付く型であり、食事の他に団欒の場となる場合が多い。トオリ並列型は室に沿って細長く付く型で、食事の他に通路や階段の上がり場としての機能を持つ。

イタバの付き方は、1列構成の町家では部分型・室型に、2列構成の町家ではトオリ並列型になる。2列構成の中でも間口がより広くなると、イタバの付き方は室型になる。この場合室数が多く、各室の機能の分離が明確であるため、イタバの機能は主に食事だけとなる。

イタバの付き方によって、食事以外の機能に違いがあり、イタバの付き方は間口幅と列構成によって決定されることが分かった。

5. イタバとチャノマの関係

接客が行われ格の高い空間であるチャノマとイタバの位置関係に着目し、接客空間と生活空間の関係についてみていく。

■部分型イタバの場合

イタバとチャノマとの間にトオリを挟む。下足域であるトオリを挟むことで、生活の作業や食事を行う生活空間と接客空間に距離がとられている (fig. 8-a)。

■室型イタバの場合

オモテ側からチャノマ→ネマ→イタバと並び、イタバとチャノマの間に1室あるいは2室挟んでいる。ネマが間に配されることで、生活空間と接客空間とが直接つながらないようになっている (fig. 8-b)。

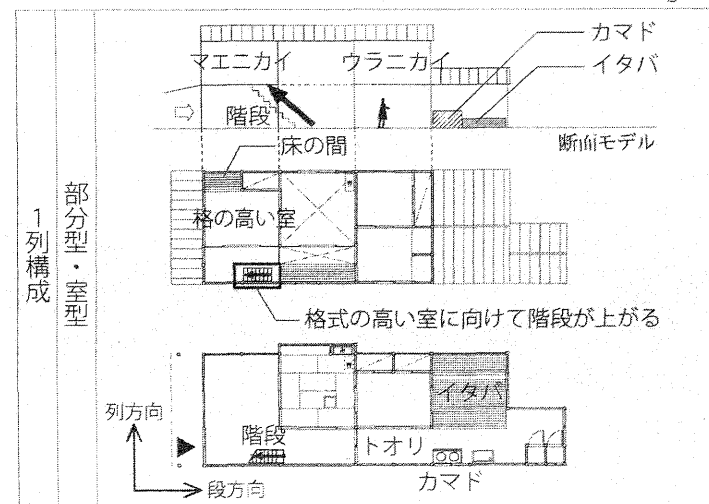
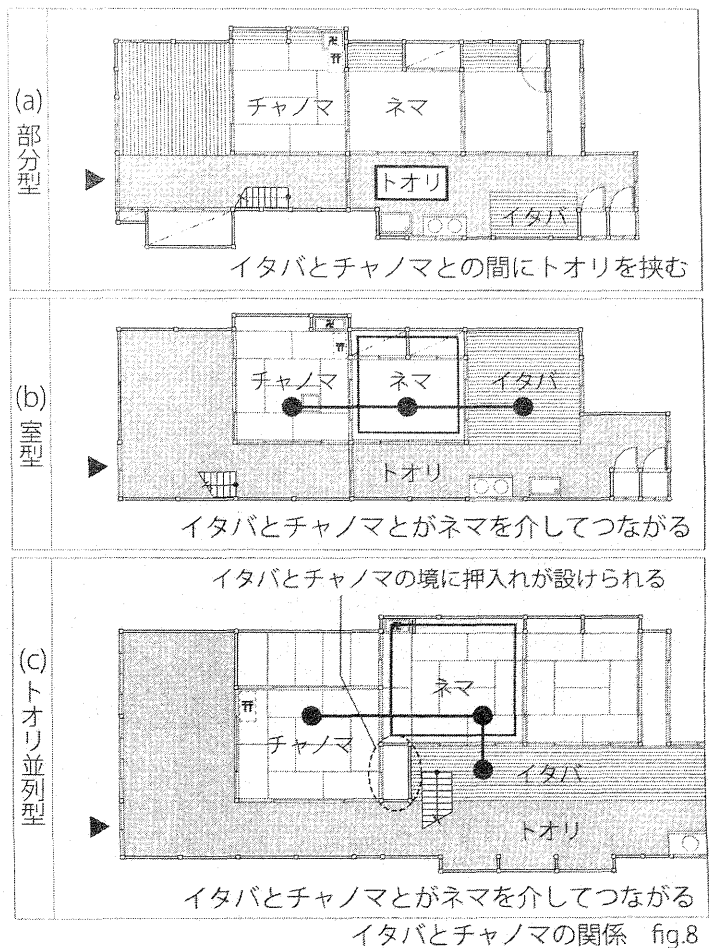
■トオリ並列型

イタバとチャノマは接しているが、境に押入れを設けたり、境の障子戸の前に家具を置いたりして、直接行き来しないようになっている。室型と同様にネマを介して距離をとっている (fig. 8-c)。

列構成によってイタバの付き方は違い、室空間構成は異なる。どの場合においてもイタバとチャノマとの距離のとり方は異なるが、生活空間と接客空間が直接つながらないようになっており、距離が保たれている。

6. イタバと階段位置の関係

イタバの付き方による住空間や住まい方への影響をみるうえで、イタバと階段位置に着目した。吉田の町家では、階段はトオリやイタバ等の仕切りのない空間に配される。また、カマドは2階への排煙の影響が少ない場所に設けられるため、カマド上部には2階はこ



ない。1列構成の場合階段は、2段目周辺のトオリに位置し段方向に上がる。2列構成でイタバがトオリ並列型の場合、階段はイタバに位置し列方向に上がり、さらに2列構成でイタバが室型の場合、階段はチャノマに位置し段方向に上がる。

6-1) 1列構成の場合 (部分型・室型のイタバ)

イタバは主屋中央よりウラ側に位置しており、カマドとイタバは近接しているため、イタバ上部に2階はこない。階段と2階との関係として、階段は2階の床の間の設けられている格の高い室に向かって上るとい

6-2) 2列構成の場合 (トオリ並列型のイタバ)

イタバが細長く主屋中央から後方にかけて位置し、イタバの空間内にカマドと距離をとることが可能な場所があるため、イタバ上部に2階を設けることができる。階段と2階との関係としては、階段が列方向に2階中央付近に上がることで、マエ・ウラニカイの室への方向性はなく、両方に行き来しやすい動線がとられる (fig. 10-a)。

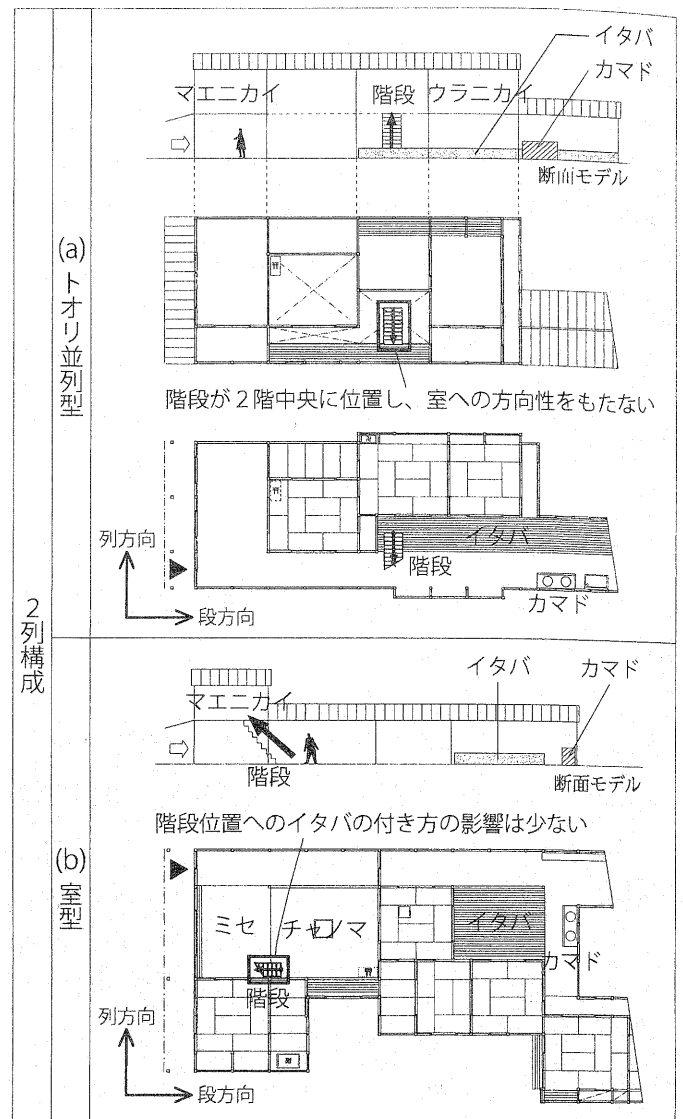
6-1、6-2の場合、階段位置はイタバの付き方によって異なり、2階の使われ方に影響する。

6-3) 2列構成の場合 (室型のイタバ)

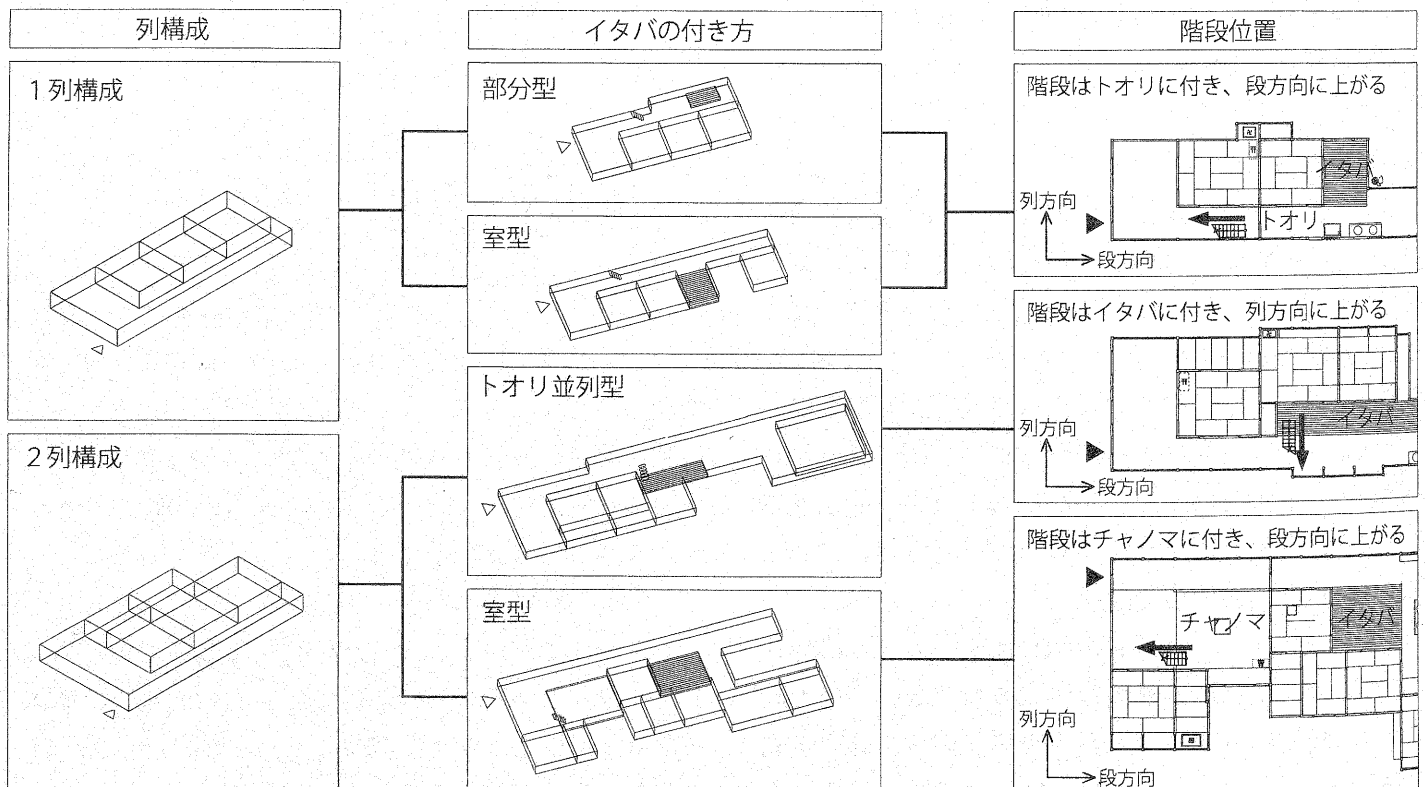
1階の室数が多いため、2階の室としての必要性が少ない。そのため、2階は商売道具や品物置き場として商売の機能を補う空間として利用される (fig. 10-b)。この場合、階段位置はイタバの付き方の影響は少ない。

7. まとめ

イタバは食事空間であると共に、主要な生活空間である。イタバの付き方は列構成によって異なり、室空間構成に違いを生むことが分かった。しかし、生活空間と接客空間との間に距離をとるといいう住まい方は変わらないといえる。また、イタバの付き方や2階の室構成は、階段位置の決定要因の一つとなり、町家全体の空間構成や住まい方に影響しているということが明らかになった (fig. 11)。



2列構成と階段位置 fig.10



まとめ fig.11